

研 究

HCU 病棟におけるせん妄発症に影響を及ぼす因子の検討：
チェックリストを用いて

松橋 郁恵, 山本 貴子, 木村 浩美, 樋口 真子

八戸赤十字病院 HCU 病棟

Key words : せん妄スクリーニングツール (DST), チェックリスト, せん妄発症因子, HCU.

論文要旨

集中治療室入院に関連してせん妄の発症例が多いと言われているので、以前 HCU に入院した患者のせん妄発症状況について調査した。その結果、八戸赤十字病院 HCU 病棟にした患者 100 人中、20 人 (20%) がせん妄を発症していた。八戸赤十字病院では、せん妄をスクリーニングする方法を定めていなかった。そこで、今回、せん妄発症の要因を明らかにするためにチェックリストを作成して、発症要因の因子を調査した。その結果、有意なせん妄発症因子は、呼吸困難の有無であることが明らかになった。

I. はじめに

近年、せん妄が集中治療室候群 (以下 PICS と記す) に関連していることが指摘され、集中治療室退室後の身体・精神的機能回復や生存率へも影響している。患者がせん妄を発症することなく入院期間を過ごすことは、医師・看護師が治療や看護ケアに集中でき、治療が円滑に進み、入院期間の短縮につながる。当院 HCU 病棟は、救急搬送された緊急入院の患者の受け入れを行っている。病床数 8 床であり、脳血管疾

患・循環器疾患の患者の入院が多く、治療優先となるため安静度が制限される。そのため、当院 HCU 病棟での PICS に関連するせん妄発症の調査の必要性が言われ、2018 年 4 月～6 月の HCU 入院患者のせん妄発症状況についてせん妄スクリーニングツール Delirium Screening Tool (以下、DST と記す) を用いて調査を行った。その結果、全体の 20% がせん妄を発症していた。現在 HCU 病棟には、せん妄スクリーニングの方法は導入されておらず、統一した方法によるスクリーニングができていない。そのため、せん妄ケアについては看護師各々の経験をもとに実践されていた。そこで、今回、HCU において入院時チェックリスト (以下、チェックリストと記す) を作成し、せん妄に影響を及ぼす要因を明らかにし、その有用性を評価し、せん妄予防対策の早期介入につなげたいと考えた。

II. 研究目的

せん妄に影響を及ぼす因子を明らかにする。

III. 研究方法

1. 研究デザイン：量的研究
2. 対象：2019 年 5 月～2019 年 8 月 HCU 入室した患者 100 名
3. 期間：2019 年 5 月～2019 年 10 月

4. データ収集

- 1) 2018年4月～6月の調査でせん妄発症の有無に関連すると考えた項目を抽出し、チェックリストとした。せん妄発症因子として調べた項目は、禁食、貧血、自力体位交換の制限、強い痛み、吐き気、発熱、呼吸困難の7項目とした。
 - 2) チェックリストは、入院時から3日目まで評価し、変化があった場合は再評価することとした。
 - 3) チェックリスト下段に空欄を設け、自由記載をできるようにした。
 - 4) チェックリストで一つ以上の項目に当てはまる場合は、卯野木氏¹⁾の翻訳したせん妄評価法である日本語版 Intensive Care Delirium Screening Checklist (以下、ICDSC とする) を使用し、せん妄の有無を評価した。
 - 5) 4点以上でせん妄ありとした。
 - 6) 対象患者が転棟、退院となった場合は評価なしとした。
5. ICDSC 4点以上で、調査した3日間のうち1日でも該当した患者を「せん妄発症群」とした。せん妄発症群とせん妄非発症群で、せん妄発症の背景要因を3日間の調査項目で要因に差がないか χ^2 乗検定を用いて分析し、 $p < 0.05$ を有意差ありとした。検定にはSPSS 25.0を使用した。

6. 倫理的配慮

看護研究に関する説明書を家族が面会時に待機するHCU病棟入口に掲示した。本研究以外で使用しないこと、個人が特定されることが無いよう配慮することを記載し、協力をお願いした。協力しないという申し出がなかったものは同意とみなした。HCU病棟スタッフ17名に本研究の目的・方法を説明し、研究協力の了承を得た。使用したチェックリスト用紙は専用ファイルに入れ、調査終了後破棄することとした。本調査は、当院看護部看護研究倫理委員会の承認を得て行った。

IV. 結 果

1. 対象の属性

対象者は男性51名(51%)、女性49名(49%)で、年齢別では、10代1名、20代2名、30代2名、40代7名、50代17名、60代20名、70代19名、80代24名、90代8名であった。疾患別では、脳血管疾患患者63名(63%)、循環器疾患患者24名(24%)、その他13名(13%)であった。

2. せん妄の発症状況

1) せん妄発症率・背景

せん妄発症者は、入院1日目100名中6名(6%)、2日目、94名中4名(4.2%)、3日目、75名中4名(5.3%)で、せん妄発症率の平均は、5.1%であった。せん妄発症群10名の性別は、男性5名(50%)女性5名(50%)、疾患別は脳血管疾患患者5名(50%)循環器疾患患者3名(30%)その他2名(20%)であった。せん妄発症群の年齢は、70代3名(30%)、80代4名(40%)で、90代3名(30%)と75歳以上が8名(80%)であった。せん妄発症群の平均年齢は83歳で、せん妄非発症群は66歳、平均年齢68.3歳であった。背景として、緊急入院患者8名(80%)、認知症患者3名(30%)で、せん妄発症の既往あった患者は0名(0%)であった。

2) せん妄発症因子(表1)

せん妄発症の有無で有意差が見られたのは、表1に示した関連10項目のうち呼吸困

せん妄発症2日目	せん妄発症2日目		χ^2 検定
	あり(%)	なし(%)	
禁食	50	32.2	n.s.
貧血	75	22.2	n.s.
自立体位互換の制限	50	26.6	n.s.
強い痛み	0	12.2	n.s.
吐き気	0	8.8	n.s.
発熱	25	5.5	n.s.
呼吸困難	25	0	*

表1: せん妄発症検討項目: 発症要因の解析結果.

難 2 日目 ($p = 0.05$) のみであり、その他の項目には有意差はなかった。

V. 考 察

HCU 入室患者のせん妄発症状況について DST を用いて行った調査をもとにチェックリストを作成し、せん妄発症因子について調査した。その結果、入院 2 日目の項目での呼吸困難が有意の発症因子であった。藤田²⁾は、せん妄発症の因子として挙げた年齢・後期高齢者・認知症ありの項目で有意差ありとしているが、我々の研究ではせん妄発症因子として、年齢・認知症について有意差は認めなかった。年齢別では、せん妄発症群は 75 歳以上が 80% を占めていたこと、平均年齢が 83 歳であったことから、後期高齢者は発症の要注意といえよう。今回作成したチェックリストの中で、せん妄発症に根拠のある因子は、呼吸困難 ($p = 0.05$) のみであった。入院時より、呼吸困難症状を認めた患者はせん妄発症のハイリスク患者として、早期からせん妄予防対策を行う必要があると考えられた。

せん妄を発症した 10 名の疾患別では、脳血管疾患の患者が全体の 50% を占め、最も多かった。急性期領域では、せん妄は急性脳機能障害と考えられているため³⁾、脳血管疾患は、他の疾患に比べてせん妄を発症しやすいことを念頭に置き対応することが必要である。

今回の調査でせん妄発症群の 80% が緊急入院であった。奥苑ら⁴⁾の研究でも、緊急入院患

者のせん妄の発症率が高い。緊急入院は、患者がおかれている状況を受け入れられないことが多く、集中治療室の環境から多くのストレスを抱き、せん妄発症に大きな影響を及ぼすと考えられた。

集中治療を必要とする患者は、生命維持のための気管挿管や各種ドレーン、点滴ライン、様々な医療機器等による安静度制限によりせん妄を発症しやすい状況にある。そのため、せん妄発症を予防できるよう、患者の病態把握に努めるとともに、上記に示したせん妄発症因子を意識しながら、チェックリストを用いて評価する事がせん妄予防対策につながると考えられた。

VI. 結 論

HCU 入院患者に発生するせん妄要因々子について検討した。その結果、

1. せん妄発症率の平均は、5.1%であった。
2. せん妄発症に有意に関連する因子は 2 日目の呼吸困難のみであった。
3. 今回作成したチェックリストで、せん妄発症に関連する予測因子を意識しながら予防的介入の必要性を認識した。

VII. おわりに

本研究では、せん妄発症因子を特定できたが対象者が 3 日目には 68 名と減少し、せん妄発症群が 10 名であった。この人数は統計的に検討するには少ないと思われ、さらに人数を増やして検討したい。

文 献

- 1) 卯野木健：ICDSC, Expert Nurse 2009；25:45-46
- 2) 藤田京子・笠井佳枝・元木和代, 他：集中治療棟における高齢者のせん妄発症に及ぼす因子の検討-多変量解析を用いた予測因子の同定 第42回日本看護学会論文集成人看護 I 2012；66-69
- 3) 有賀洋文：一般病棟ナースのためのせん妄ケア 照林社 東京2017；110-115
- 4) 奥苑宏平・鈴木裕子・木村千浩：せん妄リスクスコア表導入による術後せん妄発症予防の取り組み 第46回日本看護学会論文集 急性期看護2016；143